



学校の「新しい日常」へ向けて

いつも、本校の教育・保育にお力添えをいただき、ありがとうございます。アンケートやメール等でお寄せいただいております皆様の声に励まされております。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

はじめに、在宅勤務中である教職員の「新しい日常」の一端をお伝えしたいと思います。

まずは、オンライン授業とその準備です。これまで対面で行ってきた授業では、学習の理解度を発表やノート等の記述から把握したり、その場で直接のアドバイスをしたりすることができました。しかし、オンライン授業では、教材の提示、課題の準備等、これまでの方法がそのままでは通用しませんし、準備には時間がかかります。特に、小学部低学年や幼稚部では、日々試行錯誤の連続です。

次に、授業以外の時間です。現在の小中学部の時間割では、常に誰かが授業をしています。そのために週に1度、全員が集まるWEB会議の時間は貴重です。会議の提案作成は、各教員の授業外の時間になりますし、感染症予防対策を踏まえた行事等の在り方を検討するには、相応の時間を要します。また、現地採用教職員は、随時スペインの情報を収集しており、情報がアップデートされる度に教育・保育活動に反映させています。さらに、オンライン授業では、WEB接続等で問題が発生した場合に備え、教職員がSNSで連絡を取り合って、臨機応変に対応できる体制にしています。メール対応は、勤務時間外に行うことも多いです。こうして、授業時間外でも、教職員同士はつながり、教育・保育を支えています。

さて、ここまで登校・登園ができない期間で考えさせられたことがあります。それは、「学校とは、何をするとところか」ということです。拠り所は、先日学校として示しました基本方針(①健康・安全を最優先する、②教育・保育活動を継続する)です。そのうえで、本校の特色(③異文化理解)を生かした活動を構想します。当然、COVID-19以後の「新たな日常」の中で実現するためには「変化」が必要になります。

これまで本校は、スペイン政府や文部科学省からの通知等の「根拠」に基づき、教育・保育活動を考えてきました。感染症予防対策も含めて、ここから見える新たな「可能性」として、例えば、WEBでできること(学校発文書のデータ配布、WEB会議・面談やアンケート等)の広がりが挙げられます。また、学校における学習時間(国際的なデータによれば、必ずしも長時間の学習が、学力向上につながらないこともある)や学校・園の滞在時間(特に、幼児児童への負担)、教職員の働き方(規定時間を超えた勤務)など、学術的な知見や勤務時間記録等の「根拠」をもとに見直す時期にきているのではないかと考えます。

今後、目の前の子どもたちへの教育・保育へ柔軟に対応しつつも、中長期的な視点で「学校とは、何をするとところか」を考え続けたいと思います。その過程で、「学校に集い、行う価値のあるもの」が見えてくると考えるからです。そして、それが、学校の「新しい日常」になることでしょう。

これからも、皆様からの御意見をお待ちしております。

(文責：教頭 本荘文康)

行事予定

- | | | |
|----------|--------|--------------------------------|
| 7月21日(火) | <小中学部> | 個人懇談会(1日目) |
| 22日(水) | <小中学部> | 個人懇談会(2日目) |
| 24日(金) | <小中学部> | 1学期終業式 |
| 8月26日(水) | <小中学部> | 2学期始業式、在宅学習開始 |
| 31日(月) | <小中学部> | 一斉登校、入学の集い |
| 9月1日(火) | <小中学部> | 分散登校・在宅学習 |
| | <幼稚部> | 分散登園・家庭保育サポート開始
始園の集い、入園の集い |

※ 2学期以降の詳しい予定は、1学期終了までにお知らせいたします。



お知らせ

- (1) 夏季休業期間の学校への問い合わせは、メールにてお願いいたします。
- (2) COVID-19の状況により、予定が変わることが予想されます。今後も、学校よりメールでお知らせをしますので、ご確認をよろしく願います。